人間生活学専攻　原田萌香
第 24 回日本災害医学会総会・学術集会　米子コンベンションセンタービッグシップ他（米子市）
H31.3.18～H31.3.20

演題名：栄養支援に向けた EMIS 避難所情報入力状況の分析　―西日本豪雨災害および北海道胆振東部地震―
演題名（英語）：Analysis of shelters information input status of EMIS after the Torrential Rain in Western Japan and the 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake for disaster nutrition support.

演題区分
一般演題（口演）
第一希望：23：避難所・救護所
第二希望：15：情報・通信システム

原田萌香[1,2]、星庵史典[1,3]、岡純[2]、岬美穂[4]、笠岡(坪山)宜代[1,5]
[1]医薬基盤・健康・栄養研究所　国際災害栄養研究室
[2]東京家政大学
[3]関西電力病院　情報システム部
[4] DMAT 事務局
[5] JDA-DAT エビデンスチーム

【背景】医薬基盤・健康・栄養研究所　国際災害栄養研究室では、被災地の栄養支援に向けた後方支援を行っている。様々なツールからリアルタイムで必要な情報を分析し、すぐに支援につなげている。過去の災害でも、EMIS から飲料水や食料の充足状況などを経時的に分析し、栄養支援が必要な避難所を同定することで、日本栄養士会災害支援チーム JDA-DAT や被災地行政へ情報提供を行ってきた。今後の災害時でも EMIS を有効に活用するため、EMIS 上の避難所情報が被災地のリアルタイムな実情をどの程度捉えているか把握する必要がある。そこで、本研究では EMIS の避難所情報入力率を分析することを目的とした。
【方法】西日本豪雨災害および北海道胆振東部地震において、発災直後から当研究所の閲覧パスワードを用いて EMIS 避難所データのモニタリングを行い、避難所数・飲料水・食料について入力率を算出した。対象は、西日本豪雨災害においては岡山県・広島県・愛媛県、北海道胆振東部地震においては北海道全域の避難所とした。
【結果と考察】EMIS 上の避難所は、発災から２～３日目から増加し５日～1 週間程度で横ばいとなった。一方、総務省消防庁の報告によると、避難所数は発災直後～2 日目がピークで、その後減少した。約 4 日目以降は、消防庁が発表している避難所数に対する EMIS 上の避難所数の割合は 100%を上回り、最大で 439%にものぼった。実際はすでに解消された避難所も EMIS 上では入力が継続されている可能性が考えられる。また栄養支援に必要な情報である、飲料水や食料の入力率は約 30%にとどまった。EMIS パスワードをもつ行政栄養士が積極的に入力するなど、食事情報の入力率を向上させる必要が示唆された。

キーワード（３つ）：EMIS、栄養支援、後方支援